

防災対策は家庭から

家族で防災について話し合おう

実際に地震や風水害、火災が発生したときのことを想定して、各自ですべきことや避難場所、連絡方法などを家族で話し合っておきましょう。月に一回程度、定期的に話し合う習慣をつけましょう。

家族で話し合うテーマ

家族一人ひとりの役割分担を決める

- 日常の防災対策の役割と、災害発生時の役割を決めておく。
- 家族に高齢者や障がい者、乳幼児などがある場合には、保護担当者を決める。



避難場所、避難経路を確認する

- 最寄りの避難場所を確認する。
- 家族が離ればなれになったときの集合場所も決めておく。



災害発生時の連絡方法を確認する

- 災害用伝言ダイヤル「171」、災害用伝言板などの使い方を確認する。
→ 51 ページ参照
- 遠方に住む親せきや知人を中継地点にして連絡を取る方法もある。



危険個所をチェックする

- 家の内外に危険なところがないかチェックする。
- 危ない個所があったら、修理や補強をする。



非常持出品をチェックする

- 必要な物が揃っているかチェックする。
- 食べ物の賞味期限のチェックなども忘れずに。



防災用具をチェックする

- 消火器や救急箱の置き場所や製造年月日などを確認する。
- 消火器の使い方を覚える。
→ 41 ページ参照



避難ルートを歩いてみよう

休日などを利用して、自宅から避難場所まで実際に歩いてみましょう。川のそばやがけに近い道、橋などはできるだけ避け、安全なルートをお知らせください。災害時の状況によっては、道路が通行止めになる恐れもあるので、複数のルートを見つけておくとう安心です。



家族との連絡方法などを決めておこう

災害は、家族が一緒のときに起こるとは限りません。そんなときでもあわてずにすむように、家族が離ればなれになったときの連絡方法や集合場所を日ごろから決めておくことが大切です。

連絡先・連絡方法を決めておく

複数の通信手段を使えば、家族と連絡が取れる確率を少しでも高めることができます。いざというときの連絡先や連絡方法を家族で共有し、携帯電話やパソコンなどの設定を事前しておきましょう。準備した連絡手段が全く利用できなかったときのことも家族で話し合っておきましょう。

→ 51 ページ参照



集合場所を決めておく

家族と連絡が取れないことを想定し、家族で集合場所を話し合っておきましょう。また、万一のことを考えて、複数の集合場所を決めておきましょう。集合場所は、例えば公園というだけでなく「噴水の前」などと具体的に決めておきましょう。

子どもの迎えについても話し合っておこう

東日本大震災は子どもたちの下校時間や放課後にあたる時間に発生しました。災害はいつ起こるかわかりません。子どもの迎えをどうするのかなどについて学校などに確認し、その対応を家族で話し合っておきましょう。

学校などに確認しておきたい点

- 家族への連絡体制は？
- 子どもの避難誘導體制は？
- 保護者への引渡し方法は？
- 保護者がすぐに引き取れない場合の対応は？

帰宅困難に備えて

昼間人口が多い都市部で日中、大地震が発生した場合、交通機関がストップして自宅に戻れない「帰宅困難者」が大量に発生する恐れがあります。一般に自宅までの距離が20キロを超えると「徒歩帰宅は困難」です。危険な状況での徒歩帰宅は、二次災害にあう危険性があります。もし帰宅困難に陥ったら、交通機関などが復旧するまで不用意に動かず、ラジオなどで正確な情報を把握しながら、勤務先や学校、一時避難場所など安全な場所で待機することが基本です。災害の状況によっては、すぐには自宅に戻れない場合もあることを、普段から家族と話し合っておきましょう。

